

「2024年まで使える!月の形早見盤(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

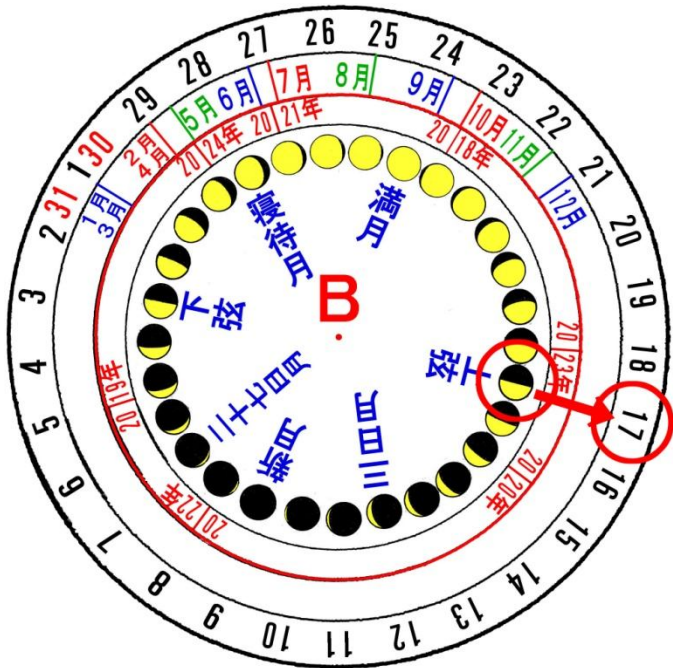
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

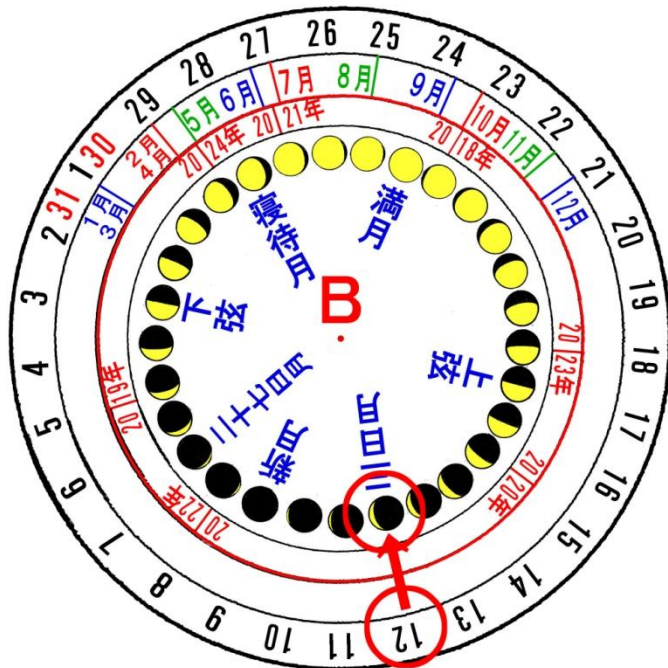
自作の「月の形早見盤」は、複雑な作業はなく、簡単な工作のできるもので、ものづくりが苦手な子どもでも、20分もあれば完成する。



誰が作っても、だいたい同じものができるのだが、やはり出来上がると嬉しいのだろう。完成すると「先生できました!」と見せに来る。私も「ああ、よくできましたね!」とほめる。この一瞬のやりとりが、「ものづくり」では大切だと思う。



使い方も簡単だ。内側の赤い円盤の「20〇〇年」とその外側の「△△月」を合わせる。一度合わせれば、一ヶ月間はそのままで良い。上の図では、2018年10月の半月(上弦)が17日とわかる。



その逆にも使える。上の図では、2018年10月12日は、三日月が見られるとわかる。日付と月の形をたどっていくと、月の形の変化もわかる。私はよく天体写真を撮る。天体写真を撮る時は、月の形が重要だ。満月前後の時は、月明が邪魔をして、良い写真は望めない。車の中に1枚置いておくと便利だ。



この早見盤は2024年まで使える。子どもたちは、何年も先の自分の誕生日の月の形を調べていた。教材研究には少々時間がかかったが、子どもたちは「月の形」について興味を持ってくれたようだ。

【子どものノートから】

「ぼくは星座早見ばんを持っています。でも月の形はわかりませんでした。星座早見ばんと、この月の形早見ばんを持っていれば、バッチリです」
「私が中学3年になった時のたん生日は、満月でした。とてもうれしかったです」